

えねなび

編集発行：ひた市民環境会議エネルギー部会
事務局：日田市環境課
(TEL)22-8208 / (FAX)22-8241

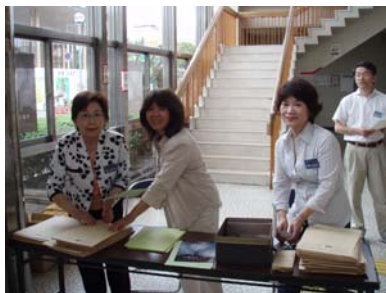
Vol.5 特集「不都合な真実」日田上映会

「復活！水車小屋」

2007年8月1日発行

映画「不都合な真実」日田市で上映

地球温暖化の危機を描いてアカデミー賞も受賞した話題のドキュメンタリー映画「不都合な真実」が6月3日（日）日田市民会館で上映されました。この映画を福岡市で見て感動した中野モーターズ社長の中野さんが「一人でも多くの日田市民にこの映画を見てほしい」との思いから、市内の多くの人々に呼びかけて上映実行委員会を立ち上げ、上映を実現しました。ひた市民環境会議を含めて市内の多くの団体が共催団体として協力し、エネルギー部会のメンバーの何人かも実行委員会に参加して活動しました。市民の皆さんの関心も高く、当日は昼夜2回の上映で主催者の予想を大きく上回る非常にたくさんの方々にご来場いただき、本当にありがとうございました。



考え行動する人の輪を広げよう！

「不都合な真実」とは…「知られると都合が悪い、知りたくない本当のこと」という映画のタイトル。アメリカ元副大統領ゴア氏が力説する地球の危機！ 確実に温暖化の進む地球は病んでいました。

緑の地球を病気にしたのは誰？ そう、私たち人間ですよネ。そして、私たちの子供たちや孫たちの未来はどうなってしまおうのでしょうか。（もうすでに多くの生物の種が消滅しました。人類もその一つの種となってしまうのでしょうか。）

ウーん、人間はそんなにバカじゃないぞ！まだ間に合うと叫びたい。まず、不都合ではあるが、この現実、真実を知ろう！ 私たちの今まで便利・快適に浸ってきた生活のツケが愛する子供たちの未来を奪おうとしている今、一人でも多くの考える人、賢く行動する人の輪を広げたいですネ。

＜温暖化を進めないために「考える人」に＞

- ◎ 戦争は何よりの環境破壊…戦争は一日も早くやめよう！
- ◎ 企業には国の政策として、より厳しい温暖化防止策を課すべし。
- ◎ 私たち一人ひとりできることを考えて誰かに呼びかけよう！
 - ① 映画会の後、ある会合をしたところ、自転車がズラリ。かなり遠い所の人も自転車でしたよ。（効果てきめんだ。）
 - ② 家庭の中でもいらぬ電気はこまめに消す。寝る時は電源から off に。（待機電力もかなり電気使いますよ。）

- ③ 冷房は 28℃、暖房は 20℃に。(日田の市役所さすがに守ってる。)
 - ④ 車を運転する人はアイドリングに気をつけよう。(エンジンかけたまま忘れたような長話は最悪。)
- ※ 夏の夜は時にキャンドルナイトで暖かいおしゃべりと食事が good !

夏の省エネ啓発活動

エネルギー部会では、「不都合な真実」の上映に合わせて地球温暖化防止のために省エネルギーを呼びかけるチラシを作成し、上映会場で来場者の皆様に配布しました。(今年新たに作成した部分を4ページに載せていますので、ぜひご覧ください。)

また、6月23日(土)に昨年同様に街頭啓発を行うこととなり、



午後4時からダイエー前とサンリブ前の2箇所で、上映会場と同じ内容のチラシを配りました。部会のメンバーのほかに、大分県地球温暖化防止活動推進員の中倉さん、仁田坂さん、高村さんも応援にかけつけてくださいました。この日チラシを受け取って読んでくださった方が、10の提案(4ページ参照)のうちどれか一つでも行動に移してくれることを願っています。



鈴連町の水車小屋が復活！

鈴連町の小野川沿いに下小竹の集落の人々が共同で利用している精米・製粉用水車があり、日田市の指定民俗文化財にもなっていますが、近年は痛みが激しくなり、2004年からは使われなくなってしまいました。このまま朽ち果ててしまうのではと残念に思っていましたが、最近になって、この水車小屋が大々的に修繕が行われ復活したという報道がなされました。

エネルギー部会では近年、水郷・日田にふさわしいローカルエネルギーとして、小水力発電の実用化をいろいろと検討していますが、このような水車は、ここよりさらに上流にある小鹿田焼の唐臼と同じく小水力エネルギー利用の原点であり、大変興味深いものがあります。そこで今回、めでたくもよみがえった水車小屋を見学しようと、6月23日のチラシ配布活動の終了後、その参加メンバーで小野川へと向かいました。

事前に水車小屋の近くに住む郷土史家で元自治会長の野田高巳先生に案内をお願いしていたところ、ありがたいことに私たちが到着する時に合わせて水車を動かしてくれていて、ちょうど精米をしてい



るところでした。ここで参加者一同が大いに感心したことは、スサと呼ばれるわらを編んでつくった輪の存在でした。これを石臼の中に入れておくと、うまい具合にもみが上の方から底の方に落ちていき、まんべんなく精米ができるのです。（これがないと、底にたまったもみを杵が何度も打つだけで、上の方はうまく精米できません。）昔の人はシンプルながら非常にうまいことを考えたものです。

老朽化が進み、地元ではもう廃止して焼いてしまおうという提案もあったそうですが、30~40代の人たちが「自分たちの代で絶やすのはもったいない」という声をあげ、修復することになったそうです。地区の人たちが出し合ったお金だけでは十分な金額にならなかったのですが、ある篤志家が市教委に匿名で600万円もの寄付をしたことから、大規模な修復が可能となりました。トタンだった屋根は立派な杉皮で葺きなおすことができました。水車のつくりかえは地元在住の宮大工の石田裕二さんが行いました。



これが「スサ」です。

寄付をされた方は子供の頃にお母さんから「水車でついた米はおいしい」と聞かされてきたそうです。機械でするよりも時間はかなりかかりますが、ゆっくりつくので米が熱を持たず、おいしくなるそうです。精米中の米を手にとってさわってみると確かにヒンヤリとした感触でした。また、機械ですると1斗精米して9升しか残らないのに水車だと9升5合くらい残るそうで、胚芽が多く残るので栄養価も高いとのことでした。

また、以前の用水路は石積みで蛇行して漏水も多いお粗末なものでしたが、土木事務所が立派なまっすぐなものに改修してくれました。喜んでいたのですが、大雨が降った際に多量の水が勢いよく流れ込んで水車を激しく回転させ、今にもこわれそうになってしまいました。この時になって、昔の粗末な水路は増水時には適度に水を逃がして水車を守る先人の知恵だったことに気づいたということです。

修復後はいろいろな所から見学に来ているようで、ノートに書かれたものを見ると、同じ日の午前中は佐賀大学農学部地域資源学研究室のご一行様が来られていたようです。下小竹水車組合は現在10戸で構成されていますが、実際に利用しているのはそのうち8戸で組合員によって使用頻度には差があります。せっかく大々的に修繕ができたので、できるだけ地域の人々に積極的に使っていただくことをお願いしたいと思います。

参加者の感想

- ・昔の人の知恵はすごいなあ。しっかりした生活のリズムがあったんですね。手間ひまかけた工芸品のようですね。
- ・非常に工夫されてる、よくつくっていると思い感心した。
- ・電気も石油も使わずにすむ。自然の良さ、ありがたさを感じた。
- ・米が暖かくなならないのがすばらしい。
- ・小水力は、発電だけでなく、動力としての利用も大切だと感じた。



地球温暖化を防ぐための10の提案

地球温暖化の脅威は目の前の現実です。いま以上の気候変動を食い止めるためには、私たち一人ひとりが今すぐ行動を起こす以外にありません。二酸化炭素排出量の削減に向けて、今日から一つでもできることを始めましょう。

(以下の10項目は、日田市の環境行動指針などを参考にして、ひた市民環境会議エネルギー部会で選びました。)

- ① 待機電力を消費する電化製品(リモコンやタイマー付)は主電源を切りましょう。

これらは使ってなくても常時電気が流れています。外出や就寝で長時間使わない時はプラグを抜いておきましょう。



- ② 夏の冷房は28℃、冬の暖房は20℃に温度設定しましょう。

この温度でも工夫次第で快適に過ごすことができます。

- ③ 冷蔵庫の中は詰め込み過ぎないようにしましょう。

- ④ 冷蔵庫内カーテンを使いましょう。

冷気が逃げるのを遮断し大きな節電効果があります。100円ショップで売っています。



- ⑤ 買い換える時には省エネ型の電化製品や蛍光灯を選びましょう。

- ⑥ 車の運転はエコドライブを心がけましょう。(無用なアイドリングをやめる、無駄な荷物を積まない、急発進・急加速をやめる、タイヤの空気圧を適正にするなど)



- ⑦ 近くは自動車を使わず徒歩や自転車を利用しましょう。

健康増進にもつながります。

- ⑧ 外出にはできるだけ公共交通機関(鉄道、バス)を利用しましょう。



- ⑨ 車を買う時は小型車やハイブリット車など低燃費のを選びましょう。

- ⑩ 木をたくさん植えましょう。

1本の木は、その生育中に1t以上の二酸化炭素を吸収することができます。植林ボランティアなどにも積極的に参加しましょう。



電気1kW時で0.37kg、LPガス1㎡で6.5kg、ガソリン1ℓで2.3kgの二酸化炭素が発生します。エネルギーを大切に使って、みんなの地球を守りましょう。